

細屋集落における集落営農整備プラン

事業実施主体名	エコファームHOSOYA		住 所	日南町
プラン認定日	平成18年4月19日	プラン期間	平成18年～平成22年	

1 プラン内容

(1) 概要

細屋集落は、担い手農家の廃業で2haの農地の契約解除をきっかけに、農地の維持管理について話し合いを行った結果、集落営農組織エコファームHOSOYAを設立した。

設立当初から「法人化も視野に入れた安定した集落営農体制」の整備をめざし、経理一元化や、水稲用機械の導入による受託面積の拡大に取り組み、平成24年3月法人化し、目標を上回る農地集積を果たした。

また、経営面では、海藻肥料を活用した海藻米特別栽培コシヒカリの生産や、水田のオーナー制度、消費者交流や契約栽培など、新しい形の水稲経営をめざし、特徴ある取り組みを行っている。

(2) 取り組みポイント

- 細屋集落は、組織体制について継続して話し合いを行った結果、平成16年「そば生産組合」設立、平成19年集落営農組織エコファームHOSOYA設立、平成24年法人化等体制の発展に取り組んだ。
- 米の生産から販売までの機械体系を整備することで、様々な生産、販売方法を可能にした。
- 高性能機械を導入し、作業効率をあげることにより、規模拡大をはかった。
- 海藻肥料、水田オーナー制度など地域の新しい動きを経営に取り入れ、付加価値の高い米づくりをすすめている。
- 特別栽培農産物の認証取得等、環境に配慮した農業にも取り組み、法人化後にはエコファーマー（水稲）も取得した。

(3) 事業の概要

年度	内 容	事業費 (千円)	補助金額(千円)	
			県	市町村
H18	田植機 防除機 コンバイン	6,542	2,180	1,090
合 計		6,542	2,180	1,090

2 プラン実施状況

(1) 労働力、経営内容

	認 定 時 (平成17年)		現 状 (平成24年)	
経営内容・規模	水稲	0 h a	水稲	7.1 h a
	ソバ(転作田)	7 h a	ソバ(転作田)	0 h a
	作業受託(延べ)	0 h a	作業受託(延べ)	65 h a

(2) 成果

○成果

- ・法人化により、作業受託や権利設定など集落からの様々な要望に応えることが可能な体制を確立した。
- ・機械体系を整えたことが農家の安心感につながり、農地集積、作業受託、転作田管理とも目標面積を大きく上回った。
- ・特別栽培米、海藻米、水田オーナー制度などの新しい取り組みにより、米の有利販売が見込まれる。
- ・集落を基盤とした組織であることを活かし、地域ぐるみで水田オーナー等との交流イベントを行い、「日南町の米」のPRにも繋がっている。
- ・第10回日野川源流米コンテストで最優秀賞を受賞するなど米の食味についても高く評価されている。



平成24年源流米
コンテストで最
優秀賞受賞

プラン目標の達成状況

(単位:ha)

		H18	H19	H20	H21	H22	達成率
ソバ(転作田)	目標	7	7	6	7	7	
	実績	7	5	5	8	8	114%
水稲(農地集積)	目標	5	5	4	5	5	
	実績	0	0.45	2.8	9.72	9.72	194%
作業受託	目標	15	15	15	15	15	
	実績	0	6	15.3	29.52	29.52	197%

○地域への波及効果

- ・海藻を利用した特別栽培米の取り組みは、日南町内外へ広がりを見せている。
- ・体験イベントや消費者との手紙のやりとりなどを通じて、地域の生産意欲も高まっている。また、消費地での交流会に招かれるなど、交流人口の増加が地域の活性化につながっている。
- ・近隣の集落でも法人化の検討が始まるなど、組織として地域の手本にもなっている。

○今後の経営の方向性

- ・法人化を契機とし、集落内で作業受託していた農地を利用権設定してほしいという要望が急増した。そのため、水稲用機械等を新たに導入して体制を強化することで、地域の農地維持と併せて、20haを目標に規模拡大と経営安定を目指す。(平成24年度がんばる農家プランに取組中)

[日野総合事務所農林局]